

増進型福祉ゼミ

第3回
2020.2.16(日)
I-siteなんば



当日プログラム

(10'~12')

- 1.開会
 - 2.実践報告
 - 3.参加者より質疑応答
- 【参加者：27名】

福祉施設×増進型 ~みんな違って、みんないい…をめざして~

実践報告者：社会福祉法人 ライフサポート協会 原田 徹さん

してあげるのではなく、共に生きる

ルーツは障がい者との関わりのなかで抱いた自身の障がい者への偏見。相手のことを知らないまま、「そんなこと絶対にできない」と感じてしまっていた。その後障がい者の方と余暇を過ごすVoサークルを立ち上げ、活動を実施。対等な関係で一緒に遊ぶ大切さを学び、対話することで生まれる変化を実感する。「みんな違って、みんないい」お互いを認め合ううえで大切なのは、お互いを知ること。そんなキッカケとなる活動を現在幅広く展開中。

施設に利用者や関係者以外が来所する

施設を地域にある身近な場所として認識してもらいたい…という想いから事業所内にラーメン店を設置。就労継続B型として利用者とともに作業を行う上で重要となるマニュアルづくりや、餅は餅屋ということでフランチャイズのしくみを活用するなど、新たなチャレンジに取り組む結果、現在は多種多様な方がラーメンを食べに施設に来所している。ラーメン号として大学へ移動販売や、余る食材を活用した喫茶店などにも展開を広げ、取り組みをキッカケに新たな出逢いも生まれている。ある人との出逢いから印刷機を譲り受けることとなり、それを活用して、新たな活動に波及している。

印刷機を活用したダメ元企画がキッカケ

印刷機の活用を…とスタッフでアイデアを出し、ダメ元で捨てられる端切れの活用をユニクロへ提案すると、予想外の前向きな返事が。だが実際にやろうとすると足りない部分が多かった。そんなときにミシンの提供・指導を大手企業から提供を受け、デザインはデザイン学校とのタイアップが実現する…など、つながりからさまざまな寄付や応援が生まれていった。現在は商品展開も拡大し、販路の拡大や協働先の開拓も進み、一つのロールモデルとなることをめざしている。

winwinな活動実践

大農園では例年、人手をかけてミカン捨てている。だから代わりにミカンを探って持って帰ってくれる人は大歓迎される。お互いありがたい形であれば活動も自然と広がる。堺市高倉台で展開している「みんなのマーケットるびなす」も、近隣センターのスーパーが撤退することをキッカケに進んだ事業。地元の想いと法人の想いがwinwinになる形で、現在多様な主体とともに活動を展開中。地元になくはならない存在になりつつある。地域の課題に、福祉事業や障がい者などが関わる事例を積み重ねることで、偏見をなくすことにつながり、認め合う社会が実現すると考えている。このようなやり方が広がっていけば良いと思うし、これからもどんどん色々なことを試したいと考えている。